



救急救命士が救急隊と病院をつなぎ、 地域医療をスピーディーに支える

救急救命士室 室長 藤本 佳孝

吉田病院では、救急救命士が医師や看護師と共に医療を支えています。医師や看護師の過労が社会問題となる中、吉田病院では救急救命士が他の専門職をサポートし、病院の運営を円滑にする新しい役割を担っています。また、消防署の救急隊と「共通言語」で連携し、患者さんをスムーズに救急搬送できるよう努めています。

救急救命士が病院の業務をスムーズにし、医療チームを強化

2024年8月現在、吉田病院では9名の救急救命士が配置されています。当院での救急救命士の業務内容は多岐にわたります。救急外来では、救急患者の搬送や時間外受診患者の誘導、看護師と共にトリージや問診、バイタル測定をしています。また、救急救命室（ER）に配置されている救急救命士は、救急隊からのホットラインの受け取りや医療業務の補助を担っています。

救急救命士は医療の多職種の中で、垣根なくオールラウンドに動ける存在です。医師の過労が問題になり、医師の働き方改革が始まりました。医師が行っていた深夜の検体検査の業務を救急救命士にタスクシフトすると、医師の負担が減ります。手術がある日は看護師が手術の前後にする業務、いわゆるオペ出しをサポートするなど、臨機応変の対応が可能です。例えば、緊急手術の際、看護師が手術室の準備や薬剤の用意をする間に、救急救命士がバイタル測定をすると、看護師が業務に集中できます。救急救命士と看護師が情報共有し、患者さんを丁寧に診る体制にもつながります。多職種で役割分担して業務がスムーズになれば、病院がチームとして強化するでしょう。

救急救命士が救急隊と「共通言語」で24時間ホットラインの対応

当院では、救急救命士が必ず24時間、ホットラインに対応する体制です。内容を聴取して、患者さんを受け入れるかの判断もしています。事務職員や医師、看護師がホットラインを受けている病院が多いと思いますが、他の業務をしながらホッ

病院で働く救急救命士が増えれば、医療が変わる

トラインを受けるのは負担になる場合もあるでしょう。救急救命士が救急室や救急外来に配置されてマンパワーが増え、コロナ禍で減少した救急搬送件数も回復してきました。救急要請をする救急隊員とは、救急救命士の養成課程や専門学校で同じ訓練や実習を受けています。救急隊が使う機材や専門用語が理解できるので、要請内容や現場のイメージを把握できます。いわば「共通言語」があり、お互いに連帯感が生まれやすい印象です。通訳のように、医師や看護師に救急隊の状況を伝えられるのも、私たちの強みです。病院の事務スタッフからも、救急隊とのやりとりがスムーズになったと言っていました。

救急救命士が、院内で働く専門職の方で埋めきれないニッチな部分を担い、チームとしてまとめる役割をできればと思います。救急救命士のサポートで医療現場のマンパワー不足を軽減し、それぞれの仕事をより充実させるのが目標です。違う職種がお互いに歩み寄り、共通のフィールドで働ける環境が整えば、救急患者さんの受け入れはよりスムーズになるでしょう。救急救命士にはオールラウンドに働ける柔軟さがあります。配属先の負担軽減につながる潤滑油のような役割を担えるよう、現場で臨機応変に動くトレーニングを受けています。

救急救命士が活躍できる場が広がってほしいと思います。例えば、当院のスタッフが乗車する院内救急車を活用して、転院搬送を充実させる取り組みにも、救急救命士は役立てるでしょう。院内急変の対応や院内業務でも、私たちの専門性が活かせると考えています。病院スタッフをはじめ、近

隣の企業や学校の一般の方にBLS（一次救命処置）の講習も可能です。救急救命士としての職種の方々と共に成長できるように、知識や技術、人間力を向上させる努力を続けたいと思います。

消防署の救急隊員と密に連携し、地域医療を支えたい

吉田病院では、救急患者さんの受け入れを強化しています。時間が勝負となる救急搬送の応需に対して、救急救命士が救急隊と情報交換し、お互いの業務を円滑にできれば、患者さんによりよい医療を提供できるでしょう。近隣の救急隊と勉強会や意見交換会でお互いを理解して信頼関係を築き、地域医療を共に支えていきたいと思っています。

インタビュー全文をWEBページにて公開しています。

<https://www.yoshida-hp.or.jp/column/interview/index13.html>

TOPICS

- ・救急救命士が救急隊と病院をつなぎ、地域医療をスピーディーに支える
- ・国の方針で病院における救急救命士の配置が進んでいる
- ・救急救命士が病院の業務をスムーズにし、医療チームを強化
- ・救急救命士が救急隊と「共通言語」で24時間ホットラインの対応
- ・病院で働く救急救命士が増えれば、医療が変わる
- ・多くの方の思いを受けて、救急隊員から病院で働く救急救命士に
- ・消防署の救急隊員と密に連携し、地域医療を支えたい



吉田病院メールマガジン <https://www.yoshida-hp.or.jp/teki/newsletter.html>

日々の診療にお役立て頂ける脳疾患に関する専門的な情報や当院の取り組みにをメルマガにて配信しています。

※配信停止などはいつでも行って頂けます。

メルマガ登録はこちら



社会医療法人 榮昌会
吉田病院 附属脳血管研究所

〒652-0803 兵庫県神戸市兵庫区大開通9丁目2-6
TEL:078-576-2773 FAX:078-577-2792
<http://www.yoshida-hp.or.jp/>

患者さんのご紹介や当院へのご意見などは地域医療連携室にお気軽にご連絡ください。

TEL:078-576-1520 (平日 9:00~16:30 土曜 9:00~12:00 ※祝祭日は除く)